

京都市 農林業だより



発行 京都市
産業観光局
農林振興室
農政企画課



〒604-8571
京都市中京区寺町通御池上る
上本能寺前町488番地
電話 (075)222-3351

http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/soshiki/7-4-0-0-0_1.html



今年「食べて感じるエコライフ」をテーマに、環境にやさしい地元産の新鮮な野菜や京都産木材を来場者に満喫していただきました。会場では、もちつきや田んぼの魚すくい、わら細工等の体験コーナーや木工教室など多くのイベントが行われ、訪れた多くの市民の皆様が京都市の農林業を身近に感じていただくことができました。

さわやかな秋空の下、平成22年度京の農林秋まつりが11月6日(土)、北区の上賀茂神社で開催され、約2万6千8百人の来場者で賑わいました。



木製遊具も大盛況!

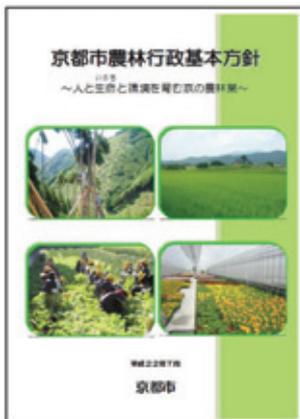


もちつきって楽しい!

また、来場者にはマイバッグ・マイおはしを持参していただくようお願いかけ、来場者と主催者が一体となった環境にやさしいエコな取組となりました。

食べて感じるエコライフ! 京の農林秋まつり 開催

京都市農林行政基本方針を策定しました!



京都市では、今後10年間の京都市の農林業が進むべき方向を示す「京都市農林行政基本方針」を策定しました。

今後、この基本方針に基づき、農業及び林業における各種施策を推進し、「人と生命と環境を育む京の農林業」の実現を目指します。

【農林行政基本方針の入手方法】

最寄りの農(林)業振興センターへお問い合わせいただくか、若しくは京都市農林振興室のホームページ

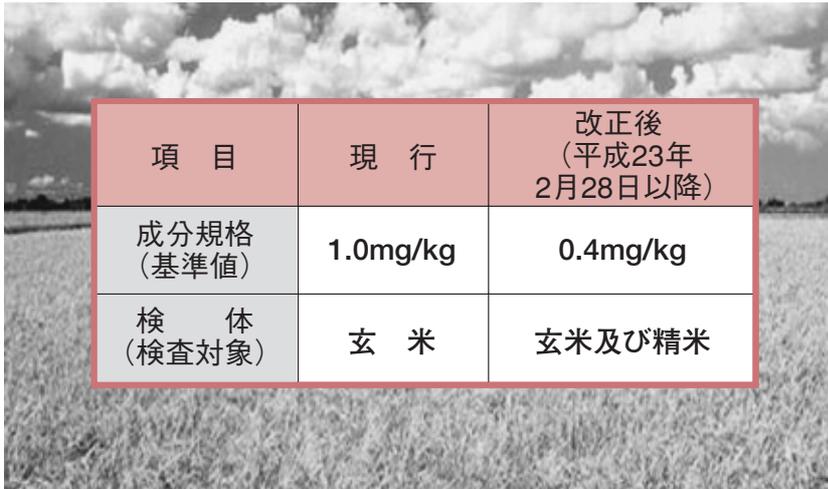
<http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000081268.html> からダウンロードしてください。

米のカドミウム基準値が改正されました！

この度、食品衛生法に定める米のカドミウム基準値が改正され、米（玄米及び精米）中のカドミウム基準値が1.0mg/kg未満から0.4mg/kg以下になりました。平成23年2月28日から流通しているすべての米に適用されます。

カドミウムは鉱山開発や精錬所からの排水など、人為的な原因に由来する場合もありますが、自然状態においても存在するため注意が必要です。特に、土壌中の酸素の多い状態では、カドミウムは水に溶けてイネに吸収されやすくなります。また、吸水の盛んな出穂前後の期間は水稲がカドミウムを吸収し、蓄積しやすくなる時期とされています。

- そこで、カドミウムの吸収を抑制する具体的な技術としては、
- ① 出穂前21日から出穂後21日までの間は**湛水管理**する。
 - ② 中干しは強く行わない。
(7～10日前後)



項目	現行	改正後 (平成23年 2月28日以降)
成分規格 (基準値)	1.0mg/kg	0.4mg/kg
検体 (検査対象)	玄米	玄米及び精米

③ 落水は収穫作業に支障がない限り遅らせること。
などの**水管理が必要**となります。今後、安心・安全な米を生産するために御注意ください。

京北農産物品評会開催！

去る11月3日（水・祝）に京北合同庁舎敷地内の京北ふるさとまつり会場で、農産物品評会が開催され、計146点の農産物が出品されました。

本品評会は、京北全域から出品される唯一の品評会で、今年は秋冬野菜や豆・いも類等の他に、猛暑の影響か約40年ぶりに実を付けたというバナナも出品されるなど、京北地域ならではの品評会となりました。厳正な審査の結果、京都市長賞には室明美さんのハクサイが選ばれ、ふるさとまつりのメイנסテージ上で表彰授与式が行われました。出品物は即売され、またたく間に完売しました。



審査の様子

未来へはばたけ!! 農家の卵

京都市では、緊急雇用創出事業を活用し、本年9月から新規就農を希望する5名の研修を実施しています。

この取組は、研修生が農作物の栽培管理技術だけでなく、販売方法などを含む農業経営に必要な知識も総合的に習得し、将来的には京都市内で就農できるよう、京都市が京の旬野菜協会に委託し実施しているものです。

研修生の皆さんは、不慣れた農作業に悪戦苦闘しながらも、自らの夢に向かって日々前進しています。今後、彼らが夢を実現できるよう農家の皆さんも温かく見守ってください。



京都大原土地改良区

21世紀土地改良区創造運動大賞受賞

去る9月6日、全国の土地改良区の優良な活動を評価する、平成22年度21世紀土地改良区創造運動大賞中央選考委員会が東京で開催され、近畿地方の代表として参加した京都大原土地改良区が、模範となる特に優れた活動を行う土地改良区として、見事、大賞を受賞しました。

左京区大原地域を管内とする同土地改良区は、環境との調和に配慮した農業生産基盤整備事業を実施するだけでなく、営農組織である「アグリビジネス21」や「大原地域運営協議会」、NPO組織「京都大原里づくり協会」と共に「大原里づくりトライアングル」（通称：里トラ）を設立し、「農」を核とした地域振興を繰り広げています。里トラでは、遊休農地の再生による観光農園づくりや農地を侵食する竹林の伐採活動を行うなど、地域の財産である農地の保全に取り組んでいます。

また、京都大原学院（小中一貫校）とも連携し、「水生生物モニタ

リング調査」、「オオムラサキの保護活動」等、子どもからお年寄りまでの各世代が交流しながら、地域の農業・自然・暮らしから生まれる恵みを分かち合う取組を行っています。

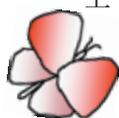
今回の受賞を契機に、農業・観光・環境・景観・暮らしなど大原地域の特性が調和する、世界に誇れる里づくりを目指して、さらなる展開が期待されています。



下：オオムラサキ放蝶会



上：受賞式の様子



越畑「棚田の里」整備事業

右京区嵯峨越畑地区では、そばなどの農産物や優れた棚田景観を活用し、「越畑フレンドパークまつばら」を拠点とした観光農村づくりに取り組んでいます。

しかし、農業者の高齢化や後継者不足が進行している中、生産活動の基盤である農道や用排水路が未整備のまま、効率的な農業経

整備する農道



測量の様子



営に支障が生じていることから、その改良が長年の課題となりました。

そこで、本年度から二箇年で棚田の中を縦横に走る農道及び水路を、現状の線形を生かして整備することとなりました。

これにより、水稻や花きなどの生産振興が期待されます。

地球にやさしい新燃料 木質ペレット

今年3月、右京区京北に、京都府唯一の大規模木質ペレット製造工場が完成しました。京都議定書生誕の地であり、環境モデル都市でもある京都市は、ライフスタイルの見直しや廃食用油のバイオ燃料化など、様々な取組を行ってきました。本工場の完成によって、



低炭素社会の実現に、また一歩近づきました。木質ペレットとは、間伐材などの木質資源を粉碎し、圧縮・成型して作られる固形燃料です。燃やした時に発生する二酸化炭素は、木が成長する時に吸収したものであり、大気中の二酸化炭素を増加させません。さらに、地域の森林資源を有効利用できる、環境にも地域にも優しい燃料です。

木質ペレットは、スウェーデンをはじめ、北欧では広く普及しており、日本でも利用が広がってきています。ストーブやボイラー、ハウス加温用温風機等の燃料として使用できます。



京都市では、木質ペレットの普及のため、ペレットストーブを購入される方に対して、設置工事も含めた費用の3分の1（上限20万円）の助成を行っています。詳細は京都市のホームページや、各区役所及び出張所で配布しているチラシを御覧ください。



近年、京都市では山間部だけでなく市街地やその周辺部にも数十頭単位のサルの群れが出没し、農作物等への被害が多発しています。

北部山間地域に位置する左京区久多地域では、田畑の周囲をフェンスで囲うほか、花火でサルを追い払うなどの対策を講じてきましたが、年々被害が拡大し、対応に苦慮しているところがあります。この状況を打破するため、久多の里の活性化を目的として活動している「久多里山協会」が、新たなサル被害対策の一つとして「猿追い犬」の育成に取り組むことになりました。

猿追い犬の候補に選ばれた「マル」と「ルパン」の2頭が、8月から警察犬訓練士の指導の下、飼主と共に、現地でのトレーニングを受け、早くも訓練を兼ねた追い上げでサルの群れに大きな脅威を与えています。

同協会の駒池重尚理事長は「今回の猿追い犬の取組を契機として、地域住民全体でサル被害対策に取り組み、撃退できれば」



ニホンザルから里山を守るワン！～「猿追い犬」始動！～



猿追い犬「マル」㊦（飼主：入江博さん）と「ルパン」㊦（同：椎葉貴裕さん）

と抱負を述べておられます。市内では他に、西京区大枝、大原野地域においても、来年2、3月のデビューを目指し、2頭の犬が候補犬として、警察犬訓練所での訓練を受けています。さらに「猿追い犬」の効果をより確実なものとするため、専門家のアドバイスを受けて、サルの行動パターンを把握するための巡回調査等にも取り組んでおります。京都市では、今後「猿追い犬」の効果を見極め、防除ネットの設置等他のサル対策と併せ、適地において「猿追い犬」の導入を進めていく予定です。